

平成 27 年度留学生受入・派遣の成果と 今後の国際交流事業について

小松 正明*

Results and Evaluation for the Foreign Student Exchange Program and the Future Programs in Kushiro College

Masaaki KOMATSU

Abstract — National Institute of Technology, Kushiro College has established the Academic International Exchange Agreement with Turku University of Applied Sciences on November 28, 2011 and with King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang on August 28, 2013. These two agreements are to establish and develop teaching and research links between each Institute. Based on these agreements, Kushiro College had accepted nine students from Finland and fourteen students from Thailand since then. And we agreed to renew TUAS/KUSHIRO MOU and will have signing ceremony at Kushiro College next year. This paper describes the result and evaluation for the International Exchange Program and cross-cultural understanding based on the foreign student exchange program in Kushiro College.

Key words: International exchange Agreement, Turku University of Applied Sciences, King Mongkut's Institute of Technology, Cross-cultural understanding

1. はじめに

釧路工業高等専門学校（以下「釧路高専」という。）は、2011年11月28日、フィンランドのトゥルク市にあるトゥルク応用科学大学(TUAS: Turku University of Applied Sciences)と、学生や教職員の交流を柱とした国際交流協定を締結した^[1]。この協定に基づき、2012年4月に3名の男子学生、2013年4月に2名の女子交換留学生を受け入れ、3ヵ月の短期留学生生活を過ごした。2014年は0名の受入であったが、2015年は東北・北海道地区高専に14名の受入打診があり、釧路高専では、昨年TUAS派遣学生が4名であったため、同数の4名を受け入れた。

一方、フィンランドへの交換留学生の派遣は2011年から開始し、昨年は4名の学生を派遣することができ、順調に派遣学生数が伸びていたが、本年の派遣は2名に減少している。

また、釧路高専は2013年8月28日、2校目の協定校としてタイのバンコク市にあるキングモンクット工科大学ラカバン校 (KMITL: King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang)と、学生交流に関する国際交流

協定を締結した^[2]。

釧路高専は、2012年10月からキングモンクット工科大学と学生や教職員の相互交流の可能性について協議を行い、交流の詳細についての調整を開始し、2013年に交流協定を締結した。この交流協定に基づき、2013年5月に4名の男子学生、2014年には5名の男子学生が、



写真1 2015年フィンランドTUASからの受入留学生

* 釧路高専電気工学科



写真2 2015年タイKMITLからの受入留学生

2015年は同様に5名の男子学生が1ヵ月の短期留学でタイから来鉚した。特に、2015年6月はフィンランドからの短期留学生4名、タイからの短期留学生5名で、合計9名の海外短期留学生が鉚路高専に滞在し、国費留学生を合せてこれまでにない国際色豊かなキャンパスとなった。

キングモンクット工科大学への本校からの交換学生は2013年に専攻科生1名、2014年に本科5年生1名、2015年には専攻科1名の派遣の実績にとどまっている。受入数に対して希望学生が少ないため、事前研修を兼ねた「短期研修プログラム」を企画している。

本稿では、2011年から本格的に始まった鉚路高専のこれまでの交換留学生受入・派遣成果について紹介するとともに、今後の国際交流事業の在り方について報告するものである。

2. 留学生受入プログラム

2. 1 留学生受入実績について

これまでのフィンランド、タイとの年度別海外派遣・受入留学生の総数を表1示す。フィンランドからの学生受入は、27年度は東北・北海道地区で14名の

表1 年度別海外派遣・受入学生総数

	フィンランド		タイ	
	受入	派遣	受入	派遣
23年度	--	3(0)	--	--
24年度	3(0)	3(0)	--	--
25年度	2(2)	2(2)	4(0)	1(0)
26年度	0	4(1)	5(0)	1(1)
27年度	4(0)	2(1)	5(0)	1(0)
計	9(2)	14(4)	14(0)	3(1)

(注) カッコ内数字は女子学生数を示す

受入を行い、28年度は16名の受入を打診されている。鉚路高専は、このうち、交流協定で謳った4名の受入を行っており、28年度においても同数の4名を受け入れる予定である。タイからの学生受入は、27年度は5名の受入を行っており、28年度も同数の5名を受け入れる予定である。

2. 2 27年度受入学生

(1) フィンランド留学生

フィンランドからの4名の受入学生情報を以下に示す。

【1】Heikki Wendelin (男) (ヘイキ)

所属学科：情報工学科 (Information Technology)

《配属先》 情報工学科・高橋研究室

【2】Tuan Minh Nguyen (男) (ミン)

所属学科：情報工学科 (Information Technology)

《配属先》 情報工学科・大貫研究室

【3】Juha Tuomas Virta (男) (ユハ)

所属学科：電子工学科 (Electronics)

《配属先》 電気工学科・小松研究室

【4】Perttu Majapuro (男) (ペレット)

所属学科：経営工学 (Industrial Management Engineering)

《配属先》 電気工学科・小松研究室

(2) タイ留学生

タイからの5名の受入学生情報を以下に示す。

【1】KlinhualTinnakrit (ニックネーム；Bom)

専攻： 建築学部 4年

《配属学科》 建築学科・加藤研究室

【2】Machim Anuntachai (ニックネーム；Nut)

専攻： ナノテクノロジー学部 3年

《配属学科》 機械工学科・高橋研究室

【3】Bunsri Pratchaya (ニックネーム；Tor)

専攻： 工学部 情報工学科 3年,

《配属学科》 電気工学科・小松研究室

【4】Lucksanasomboon Kittiwat (ニックネーム；

Wat) 専攻： 工学部コンピュータ学科 3年,

《配属学科》 電気工学科・齋藤研究室



写真3 フィンランド学生4名



写真4 タイ学生5名

【5】Yimusk Adisorn（ニックネーム；Arm）

専攻： 工学部 電子機械工学科 3年，
《配属学科》 電子工学科・中村研究室

2. 2 主な活動実績

（1）フィンランド留学生

フィンランド留学生の主な活動実績を表2に示す。
来釧初日は入居する独身寮の設備や規則を説明し，二日目からは学内でのガイダンス，指導教員との顔合わせなどを経て，順次，留学生活に必要な指導を行うとともに，寮を中心とした近隣生活圏（ショッピングセンターなど）の紹介，釧路市内案内など，初期の生活立上げに必要なガイダンスを実施している。

フィンランド留学生の主な活動実績を表2に示す。
このパターンはほぼ定型化されたもので，留学生は各所属の研究室での研究活動を中心に，滞在期間中は以下のイベントやツアーに参加し，文化交流を行っている。

- ①摩周湖，屈斜路湖，阿寒湖ツアー
- ②釧路市長表敬訪問
- ③北海道大学訪問
- ④各自計画による国内旅行

表2 フィンランド留学生の活動実績

月日	スケジュール・イベント
4月27日(月)	・釧路空港着・2名(Majapuro, Juha)、独身寮入寮
4月28日(火)	・釧路駅前、ホテルコンフォートインで2名(Heikki, Nguyen)ピックアップ ・独身寮入寮、規則説明、留学生へのガイダンス
4月29日(水)	・生活立上げのための市内案内
4月30日(木)	・キャンバスツアー ・各研究室でガイダンス実施、チュータ顔合わせ
5月1日(金)	・留学生通学開始 ・各研究室での活動開始
5月2日(土)	・摩周湖、屈斜路湖方面ツアー
5月3日(日)	・阿寒湖方面ツアー
5月4日(月) ～5月6日(水)	・休日
5月7日(木)	・各研究室での活動再開
5月8日(金)	・釧路市長表敬訪問
5月13日(水)	・特別授業(日本社会、大石先生)
5月27日(水)	・特別授業(無線 LAN 通信実験、戸谷先生)
6月6日(土) ～6月14日(日)	・各自計画による国内旅行(東京、大阪、京都、仙台他) ・北大訪問、留学生交流、よさこい祭見学
6月15日(月)	・各研究室活動再開
6月16日(火)	・特別授業(華道、大槻先生)
6月17日(水)	・特別授業(茶道、大槻先生)
6月20日(土)	・釧路市内研修ツアー(コールマイン、博物館)
6月24日(水)	・特別授業(材料試験入門、高橋先生)
6月25日(木)	・校内体育大会特別参加
6月30日(火)	・特別授業(日本のうた「ふるさと」、小田島先生)
7月4日(土)	・釣り体験@庶路川
7月9日(木)	・特別授業(エクセルを用いたモデリング・最適化、神谷先生)
7月10日(金)	・フィンランド・大学紹介授業@3E
7月16日(木)	・フィンランド、TUAS 紹介講演会@図書館大ゼミ室
7月17日(金)	・日本製紙(株)釧路工場見学
7月18日(土)	・根室方面ツアー
7月20日(日)	・苫務方面ツアー
7月22日(水)	・成果報告会@図書館大ゼミ室
7月23日(木)	・修了証の授与・ミン君離釧、札幌移動、帰国
7月24日(金)	・ヘイキ君、ユハ君離釧、JR 釧路駅→札幌移動、帰国 ・ベレット君離釧、釧路空港→新千歳移動、帰国

⑤釧路市内研修ツアー

⑥日本製紙(株) 釧路工場見学

⑦根室方面ツアー

⑧苫務方面ツアー

（2）タイ留学生

タイ留学生の主な活動実績を表3に示す。寮はフィンランド留学生と同じ独身寮（近くの日本製紙(株)釧路工場の独身寮を借上げている）に入居。フィンランド留学生同様に，独身寮の設備や規則を説明し，二日目からは学内でのガイダンス，指導教員との顔合わせなどを経て，順次，留学生活に必要な指導を行うとともに，寮を中心とした近隣生活圏（ショッピングセンターなど）の紹介，釧路市内案内など，初期の生活立上げに必要なガイダンスを実施している。留学生は各所属の研究室での研究活動を中心に，滞在期間中は，表に示すイベントやツアーに参加し，文化交流を行っている。これらのイベントやツアーは，フィンランド学生と共通に組めるものはできるだけスケジュールを合わせるよう調整を行っている。

表3 タイ留学生の活動実績

月日	スケジュール・イベント	
	学生5名	引率・ナバドール先生対応
6/1(月)	《到着初日》 羽田発(JAL541) 釧路着(KMITL 学生 5 名+ナバドール先生)、王子寮移動、寮生活の説明 学校生活ガイダンス、指導教員顔合せ 各配属研究室でガイダンス開始	《到着初日》 空港出迎 学生と一緒に王子寮移動 学校生活ガイダンス 指導教官顔合せ
6/2(火)	《市内案内(午後)》 キャンバスツアー 市内案内	《市内案内(午後)》 キャンバスツアー 市内案内
6/3(水)	《市長表敬訪問》 市長表敬訪問(13:00-13:30) 各配属研究室で各自研修テーマの実施 ネットワークガイダンス@第2 演習室(7 時限目)	《市長表敬訪問》 市長表敬訪問 《KMITL/KC meeting》 ①釧路高専紹介、KMITL 紹介 ②意見交換
6/4(木)	《通常研修活動開始》 各配属研究室で各自研修テーマの実施	《帰国》 20:15 釧路(JAL544)⇒羽田移動 00:40 羽田⇒バンコク移動
6/5(金)	各配属研究室で各自研修テーマの実施	
6/6(土)	摩周湖、阿寒湖方面旅行	
6/7(日)	ショッピングモール案内、買い物	
6/8(月) ～ 6/10(水)	6/8 から 6/10 までの活動は各研究室指導教員に一任	
6/11(木)	JR 釧路→札幌移動(スーパーおおぞら 8 号) ホテルチェックイン、フィンランド留学生と合流、札幌市内泊	
6/12(金)	北大キャンバスツアー、留学生交流、よさこい祭見学、小樽泊	
6/13(土)	札幌観光、自由行動 小樽泊(ユースホステル山麓館)	
6/14(日)	自由行動(AM)札幌⇒釧路移動(JR) 釧路着、帰寮	
6/15(月)	各配属研究室で研修再開	
6/16(火)	特別授業(華道、大槻先生)	
6/17(水)	特別授業(茶道、大槻先生)	
6/20(土)	釧路市内研修ツアー(コールマイン、博物館)	
6/21(日)	休日	
6/22(月)	各配属研究室で研修再開	
6/24(水)	特別授業(材料試験入門、高橋先生)	



写真5 摩周湖ツアー



写真6 市長表敬訪問

2. 3 受入プログラムについて

(1) 特別授業

表4に留学生用特別授業プログラムを示す。このプログラムは、茶道、華道や書道などの日本文化紹介と、本校教員の専門分野や研究の紹介を教員及び学生のボランティアベースで行うもので、第1回の受入プログラム時に確立したものである。本科、専攻科では英語で行われる授業がないため、日本文化の紹介と併せて、指導教員以外の本校教員の専門や研究を英語で紹介し、釧路高専での専門・研究などを理解することで、授業聴講に代わるものとしている。

(2) 北大訪問プログラム

北海道大学・国際本部との間で、6月に札幌で開催されるソーラン祭りに合わせて北大を訪問し、北大の留学生との交流のほか、研究室やキャンパスツアーを行う「北大訪問プログラム」を提携している。これは、北大と釧路高専が結ぶ連携協定の中の活動と位置づけ、

岸波前釧路高専校長（現室蘭工業大学監事）のお骨折りにより、北大・国際本部との間で合意されたプログラムである。

本年度はフィンランド留学生4名、タイ留学生5名の計9名が参加した。本プログラムに、本校の学生も参加させる計画があったが、中間試験と重なり、また旅費予算の関係から実現しなかった。

本プログラムでは、北大の留学生や北大スタッフとの交流はもちろんであるが、北大大学院の研究室を見学することで、継続した日本への留学への意欲を引き出すことも目的としている。

2. 3 本校学生との交流

受入学生の生活立上げのためのガイダンスや近隣生活圏の案内、釧路が持つ自然環境の紹介までは国際交流担当教職員の範囲であるが、それ以降の学校生活、寮生活は学生同士で進めるべきものである。この時、交流の輪を広げるのは、必ずしも指名されたチュータの力量だけではなく、その時の受入学生の性格や周りにいる学生の特質で決まる要素が大きい。これまでも、本校学生が受入学生との交流の輪を広げた実績は大きいものと考えている。また、彼らが帰国したあと、釧路高専から学生を派遣した時に現地で相談相手になってもらえるなどの頼りがいのある存在であり、また次の年にも交流が継続するなど、自然発生的なコミュニティの構成などにつながっている。

表4 特別授業プログラム

学 科 Department	授業名 Title of Class	概 要 Contents
一般 General Education	書道入門 Beginner's Course of Calligraphy	毛筆で漢字を書く Writing chinese character by brush
	日本のうた「ふるさと」 Song of Japan "Furusato"	「ふるさと」を紹介し、歌を覚えてもらう。 Introduction of Furusato and learn its song
	日本社会 Japanese society	日本の地理や歴史について理解を深めてもらう cultivate a better understanding of Japanese geography and history
機械 Mech.Eng.	材料試験入門 Beginner's Course of Material Tests	最新機器を用いて材料試験・分析を実習する Exercise of material tests and analyses by using up- to-date equipments
電気 Electrical Eng.	気象衛星NOAA受信システム NOAA Satellite Ground Station	気象衛星NOAA受信システムと気象画像データ受信デ モLecture for Weather Satellite NOAA ground station and demonstration for data receiving.
	海氷の可視化 Visualization of Ice Sea	画像処理を用いたオホーツク海と北極海の海水の流れ の可視化について講義する Lecture of Flow Visualization of Ice Sea using Image Processing
	核融合工学入門 Introduction to Thermonuclear Fusion Engineering	プラズマ物理とその核融合技術への応用について学ぶ This class focuses on the introduction to plasma physics and its application especially for nuclear fusion reactor.
電子 Electro.Eng.	光計測入門 Introduction to Optical Measurement	レーザを用いて分光・回折の計測を実習する。 また、分光計測について実習する。 Introduction to Optical Testing (Diffraction, Interference, and Spectroscopy)
	無線LANを使った通信実験 Performance Analysis of Wireless Link	無線LANを使った通信実験 Performance Analysis of Outdoor IEEE 802.11 Wireless Link
情報 Information Engineering	エクセルを用いてモデリングと 最適化を楽しむ Enjoy Modelling and Optimization with Excel	エクセルを用いて与えられたデータよりモデルを構築 し、それを使った最適化を行う。 You will know how to use excel to build a model with given data and use your model for optimization.
建築 Architectur e	茶道・華道体験講座 Tea ceremony, flower arrangement experience course	日本文化のひとつである茶道を体験する。 To experience the tea ceremony is one of the Japanese culture 日本文化のひとつである華道を体験する。 To experience the flower arrangement, which is one of the Japanese culture



写真7,8 北大キャンパスツアー



写真9,10 体育大会, クラブ参加



写真11,12 週末の学生交流

2. 4 受入成果の評価

これまでの受入成果として、フィンランド学生1名が東北大学に、タイ学生1名が電気通信大学に1年間の長期留学で再来日を果たしている。TUASやKMITLの学生が釧路高専での研修・研究をとおして成長することはもちろんであるが、本校教職員や学生の意識変化も大きく、英語でのコミュニケーションの必要性を強く感じているようである^[3]。

3. 本校からの学生派遣プログラム

3. 1 派遣実績について

本校からの派遣実績を表1に示す。受入数が今年度はフィンランド4名、タイが5名で順調に伸びており、来年度も同数の受入を予定している。これに対して派遣数は減少傾向にあり、学生の内向き指向が心配される。特にタイへの留学希望者が毎年1名で、受入とのバランスが全く取れていない。TUASへの派遣学生のうち、1名は本科5年の女子学生であり、履修の関係から半年の休学手続きを取っての参加となったが、本学生は文科省のトビタテ！留学JAPANプログラムの奨学金に採択されており、これは特筆すべきことと考える。

3. 2 フィンランド、TUAS訪問

フィンランド、TUASとの交流は来年度で5年目に入り、学術交流協定（MOU）の更新年度を迎える。このMOU改訂・更新およびこれまでの成果や今後のプログラムの在り方を打合せることを目的に、筆者は平成27年11月24日から27日にかけてTUASを訪問した。この時に、本校から派遣した2学生と面談し、指導教官とも研修活動内容について説明を受け、今後の活動などについて打合せた。また、現地にある日本製紙㈱の子会社、JUJO



写真17, 18 学生村女子寮



写真19, 20 寮の部屋と留学生たち

THERMAL を学生と共に訪問し、工場見学を実施した。

4. 今後の国際交流事業について

来年度はTUASとの学術交流協定更新の調印式を釧路高専で行う予定であり、今後ますます充実した国際交流事業の展開を行う予定である。このため、留学できる学生の拡充を図る目的で検討を開始している。また、学生が目が東南アジアを向いていない可能性もあり、低学年から興味を持たせるための低学年向けKMITL短期研修プログラムを企画している^[3]。

5. おわりに

釧路高専が本格的な国際交流事業・プログラムを推進するようになって5年目を迎え、特にフィンランド、TUASについては来年度で交流協定の更新年度を迎える。交流活動を振り返り、交換留学生の成長はもちろん、受け入れ側である釧路高専の学生や教職員の意識変化は大きいものとする。今後も継続してフィンランド、タイとの交流を深め、更なる交流の拡大を目指し、グローバル人材育成に貢献したい。

参考資料

- [1] 小松正明, 神谷昭基:「フィンランド・トゥルク応用科学大学交換留学生の第1回受入成果について」, 釧路工業高等専門学校紀要第46号, 2012年12月
- [2] 小松正明, 神谷昭基:「トゥルク応用科学大学およびキングモンクット工科大学からの交換留学生の受入成果について」, 釧路高専紀要第47号, 2013年12月
- [3] 小松正明:「留学生受入・派遣による国際交流事業と異文化理解」, 釧路高専紀要第48号, 2015年1月

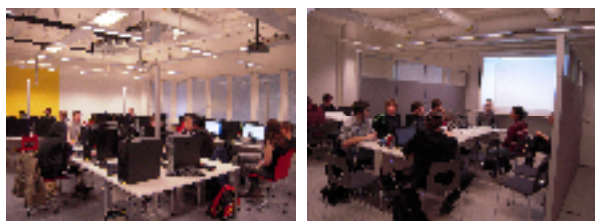


写真13, 14 TUAS研究室, プロジェクト授業風景



写真15, 16 TUAS食堂と本校派遣留学生